

※日程が変更になりました。

【開講日】令和4年4月27日(水)

三鷹サテライト教室

文学  
三鷹  
0401011

# 古典逍遙『源氏物語』 「須磨」を読む

受講料 (振込額)	12,000円				
必携テキスト	『新潮日本古典集成 源氏物語二 (新装版)』新潮社 2,530円				
講座概要	曜日	水曜日		日程 4月27日 5月18日 6月1・15日 <del>7月13・27日</del> 7月6・20日	
	時間	13:00～14:30			
	回数	全6回	定員		20名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	元本学教授 <b>深澤 邦弘</b> (ふかざわ くにひろ)				
	早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了、文学修士。 都立三鷹高等学校、立川高等学校、昭和高等学校教諭 2006年3月武蔵野大学文学部教授退職。 専攻は中世文学・国語教育。著書に『平家物語における「生」』新典社研究叢書170、 『青桐—もの一詞いはん—』編著 新典社(2014年4月)など。				
内容	九月、斎宮と共に六条御息所は伊勢下向、十一月、桐壺院崩御、翌年十二月、法華八講結願当日藤壺落飾、政治権力が左大臣方から右大臣側へ移譲していく時代、源氏周辺の公卿・弁官たちの動向もあわたしくなります。左大臣・源氏方から唐突に離れ、新しく権力の座に就く右大臣側に当然と接近をはかる人々、旧来の絆を大切に生きてようとする人々、源氏は「いちはやき世を思ひ憚りて」「参り寄るもなき」権力抗争の間に揺れ動く人々の姿に「世の中はあぢきなきものかな」と感慨を深くします。 桐壺帝政治から朱雀帝の時代へ、この転換期に、源氏はひたすら東宮の身を案ずる藤壺、悲嘆にくれる紫の上、花散里を気づかいつつ、朧月夜の君に心残しながら、故院の山陵に別れを告げて須磨へ向かいます。源氏はなぜ右大臣に朧月夜の君との逢う瀬を目撃させたのか、源氏はなぜ須磨の地を選んだのか、語り手(作者)は公に咎一官位剥奪一を受ける前に、自ら京退去、須磨隠棲を科す源氏と同行する男たちに、己の生き様を模索する人間の姿を重ね青春彷徨の物語として語り続けます。 持ちもの：テキスト。配布プリント。				
	① 4月27日：「賢木」の終わりの部分と「花散里」は要約。「須磨」 ② 5月18日：「須磨」 ③ 6月1日： 〃 ④ 6月15日： 〃 ⑤ 7月6日： 〃 ⑥ 7月20日： 〃				

世界の幸せをカタチにする。  
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

Musashino University

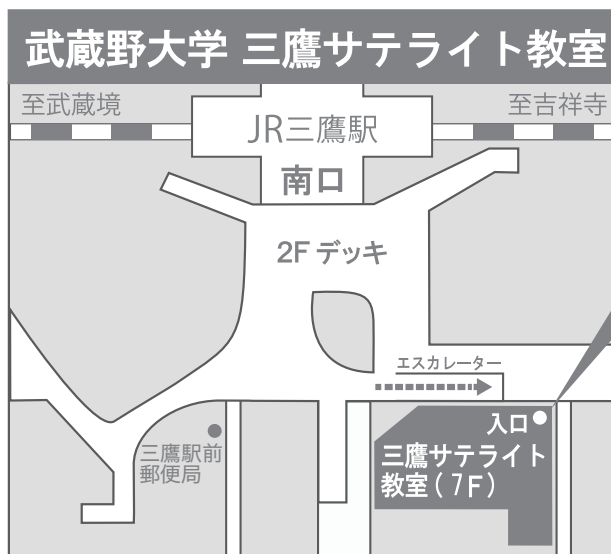
お問い合わせ TEL 042-468-3222  
FAX 042-468-3211

開室日：月～金曜日 9:30～18:00  
：土曜日 9:30～15:30 (祝日を除く)

武蔵野大学 地域交流推進課

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
www.musashino-u.ac.jp

# 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013  
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12  
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線  
東京メトロ東西線  
JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F  
(三菱UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・「受講の手引き」「新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのお願い」を必ずお読みの上、ご参加ください。